

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 10 月 3 日 (2019.10.3)

【公開番号】特開 2018-83020 (P2018-83020A)

【公開日】平成 30 年 5 月 31 日 (2018.5.31)

【年通号数】公開・登録公報 2018-020

【出願番号】特願 2016-229581 (P2016-229581)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/49 (2006.01)

A 6 1 F 13/532 (2006.01)

A 6 1 F 13/496 (2006.01)

A 6 1 F 5/44 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 13/49 3 1 5 A

A 6 1 F 13/532 2 0 0

A 6 1 F 13/49 4 1 0

A 6 1 F 13/496

A 6 1 F 5/44 H

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 8 月 21 日 (2019.8.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】パンツタイプ使い捨ておむつ

【技術分野】

【0001】

本発明は、吸収体に形成された前後方向に延びる拡散溝の潰れが抑制されるパンツタイプ使い捨ておむつに関する。

【背景技術】

【0002】

パンツタイプ使い捨ておむつは、ウエスト開口及び一対の脚開口を有し、前側のウエスト開口の縁から後側のウエスト開口の縁にわたる外装体と、この外装体における少なくとも股間部に設けられた、吸収体を含む内装体と、外装体における前側の両側部及び後側の両側部を接合するサイドシール部とを有する構造が一般的となっている。

【0003】

また、パンツタイプ使い捨ておむつの一形態として、腿の付根側を取り囲む一対の脚筒部を有するトランクスタイプ（一分丈形状又はボクサータイプとも呼ばれる）使い捨ておむつも知られている。脚筒部の構造が簡素なトランクスタイプ使い捨ておむつとしては、外装体の股間部に、吸収体の外接矩形よりも幅方向一方側及び他方側にそれぞれ延び出た一対の内腿接触部分を有し、これら内腿接触部分を含む、脚開口の縁に沿う部分が、腿の付根側を取り囲む一対の脚筒部となっているものが知られている（例えば特許文献 1～5 参照）。

【0004】

パンツタイプ使い捨ておむつにおいては、身体へのフィット性を向上させるために、外装体に、種々の弾性部材を伸長状態で固定することが行われている。例えば、サイドシー

ル部と対応する胴周り領域のうちウエスト部及びウエスト下方部に設けられた幅方向に沿う細長状のウエスト弾性部材及びウエスト下方部弾性部材のほか、外装体の前後両側に、一方のサイドシール部から脚開口の縁に沿って幅方向中央に向かい、幅方向中央を横断して他方の脚開口に向かい、他方の脚開口に沿って他方のサイドシール部に至るパターンで取り付けられた、前脚周り弾性部材及び後脚周り弾性部材は、パンツタイプ使い捨ておむつのフィット性向上に欠かせないものとなっている。

【 0 0 0 5 】

ただし、外装体における内装体の接合領域を横切るように弾性部材を設けると、吸収体が幅方向に収縮することにより、吸収体に不規則な凹凸が形成され、ごわつきや漏れの原因になるため、現在では、内装体の接合領域は非伸縮領域とすることが一般的である。

【 0 0 0 6 】

他方、パンツタイプ使い捨ておむつにおいても、他の吸収性物品と同様に、吸収体の幅方向中間に、前後方向に延びる拡散溝を設けることが行われている。拡散溝は、股間部に排泄された尿を前後方向に拡散させるものであるため、通常、一方の脚開口の縁と他方の脚開口の縁との間の領域である中間領域よりも前後両側に延びている。

【 0 0 0 7 】

しかしながら、中間領域は装着者の両脚間に挟まれる部分であるため、装着時に吸収体に設けられた拡散溝が幅方向中央側に向かう圧縮作用により潰れて、本来の拡散性能を発揮できないおそれがあった。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 8 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 0 6 - 2 3 0 9 2 0 号 公 報

【 特許文献 2 】 特開 2 0 0 7 - 0 6 1 3 3 5 号 公 報

【 特許文献 3 】 特開 2 0 1 0 - 8 2 1 3 3 号 公 報

【 特許文献 4 】 特開 2 0 1 0 - 2 2 7 5 0 5 号 公 報

【 特許文献 5 】 特許 5 2 0 8 9 6 5 号 公 報

【 特許文献 6 】 特許 4 4 3 9 1 5 0 号 公 報

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 9 】

そこで本発明の主たる課題は、吸収体に形成された前後方向に延びる拡散溝の潰れが抑制されるパンツタイプ使い捨ておむつを提供することにある。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 0 】

上記課題を解決した本発明の代表的態様は以下のとおりである。

< 第 1 の態様 >

ウエスト開口及び一対の脚開口を有し、前側のウエスト開口の縁から後側のウエスト開口の縁にわたる外装体と、この外装体における少なくとも股間部に設けられた、吸収体を含む内装体と、外装体における前側の両側部及び後側の両側部を接合するサイドシール部とを有し、

前記外装体の前後少なくとも一方側には、一方の前記サイドシール部から前記脚開口の縁に沿って幅方向中央に向かい、幅方向中央を横断して他方の前記脚開口に向かい、前記他方の脚開口の縁に沿って他方の前記サイドシール部に至るパターンで取り付けられた、一本又は互いに交差しない複数本の細長状の脚周り弾性部材を有しており、

前記吸収体は、一方の前記脚開口の縁と他方の前記脚開口の縁との間の領域である中間領域よりも前後両側に延びる拡散溝を有している、

パンツタイプ使い捨ておむつにおいて、

前記脚周り弾性部材は、前記幅方向両側のサイドシール部から少なくとも前記吸収体の側部と重なる部分まで連続するとともに、前記拡散溝と重なる部分では切断されており、

前記外装体における前記拡散溝と重なる部分は非伸縮領域となっている、
ことを特徴とするパンツタイプ使い捨ておむつ。

【 0 0 1 1 】

(作用効果)

本態様によれば、脚周り弾性部材の収縮力が拡散溝を幅方向両側に広げるように作用するとともに、拡散溝と重なる部分は非伸縮領域とされているため弾性部材により潰れることがないため、拡散溝の潰れが効果的に抑制されるようになる。なお、他の弾性部材、例えば後述するウエスト部及びウエスト下方部に設けられた幅方向に沿う直線状に配置された細長状のウエスト弾性部材及びウエスト下方部弾性部材を利用することも考えられるが、サイドシール部と対応する胴周り領域の弾性部材は中間領域を通らないため、両脚の間に挟まれる部分である中間領域における拡散溝の潰れを防止することはできない。また、中間領域にウエスト下方部弾性部材が設けられることもあるが、このウエスト下方部弾性部材は一端がサイドシール部ではなく脚開口に位置するため、これを利用しても拡散溝の潰れを抑制することはできない。

【 0 0 1 2 】

< 第 2 の態様 >

前記外装体の股間部が、前記吸収体の外接矩形よりも幅方向一方側及び他方側にそれぞれ延び出た一对の内腿接触部分を有し、これら内腿接触部分を含む、前記脚開口の縁に沿う部分が、腿の付根側を取り囲む一对の脚筒部となっている、トランクスタイプ使い捨ておむつである、

第 1 の態様のパンツタイプ使い捨ておむつ。

【 0 0 1 3 】

(作用効果)

特に、本態様のようなトランクスタイプ使い捨ておむつにおける脚周り弾性部材の場合、収縮方向と幅方向とのなす角が浅くなるため、収縮力の幅方向成分が大きくなり、拡散溝の潰れをより効果的に防止できる。

【 0 0 1 4 】

< 第 3 の態様 >

前記脚周り弾性部材として、前記外装体の前側には、一方の前記サイドシール部から前記脚開口の縁に沿って幅方向中央に向かい、幅方向中央を横断して他方の前記脚開口に向かい、前記他方の脚開口の縁に沿って他方の前記サイドシール部に至るパターンで取り付けられた、一本又は互いに交差しない複数本の細長状の前脚周り弾性部材を有しており、

前記脚周り弾性部材として、前記外装体の後側には、一方の前記サイドシール部から前記脚開口の縁に沿って幅方向中央に向かい、幅方向中央を横断して他方の前記脚開口に向かい、前記他方の脚開口の縁に沿って他方の前記サイドシール部に至るパターンで取り付けられた、一本又は互いに交差しない複数本の細長状の後脚周り弾性部材を有しており、

前記中間領域の幅方向両側で、前記前脚周り弾性部材の少なくとも一本と、前記後脚周り弾性部材の少なくとも一本とが交差するパターンで、前記前脚周り弾性部材及び後脚周り弾性部材が取り付けられている、

第 1 又は 2 の態様のパンツタイプ使い捨ておむつ。

【 0 0 1 5 】

(作用効果)

このようなパターンで前脚周り弾性部材及び後脚周り弾性を設け、その両方の収縮力が合わさって拡散溝を幅方向両側に広げるように作用させると、拡散溝の潰れ防止効果がより一層のものとなる。

【 0 0 1 6 】

< 第 4 の態様 >

前記前脚周り弾性部材及び後脚周り弾性部材がその本数及び配置に関して前後対称配置で設けられている、

第 3 の態様のパンツタイプ使い捨ておむつ。

【 0 0 1 7 】

(作用効果)

このような前後対称配置により、前脚周り弾性部材及び後脚周り弾性部材の収縮力の縦方向成分が相殺されるため、吸収体におけるスリットの両側に対して特にバランスよく幅方向の力が作用し、スリットの潰れ防止効果がより一層のものとなる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 8 】

以上のとおり、本発明によれば、吸収体に形成された前後方向に延びる拡散溝の潰れが抑制されるパンツタイプ使い捨ておむつとなる、等の利点がもたらされる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 9 】

【 図 1 】 展開状態のトランクスタイプ使い捨ておむつの平面図（内面側）である。

【 図 2 】 展開状態のトランクスタイプ使い捨ておむつの平面図（外面側）である。

【 図 3 】 内装体の平面図である。

【 図 4 】 図 1 の 4 - 4 断面図である。

【 図 5 】 図 1 の 2 - 2 断面図である。

【 図 6 】 図 1 の 3 - 3 断面図である。

【 図 7 】 トランクスタイプ使い捨ておむつの装着状態の前方斜め下から見た斜視図である。

【 図 8 】 弾性部材のカットパターンを示す平面図である。

【 図 9 】 接着剤塗布パターンを示す平面図である。

【 図 1 0 】 図 2 の要部拡大平面図である。

【 図 1 1 】 他の形態の要部拡大平面図である。

【 図 1 2 】 脚周り弾性部材の他のパターンを示す平面図である。

【 図 1 3 】 図 1 2 の要部拡大図である。

【 図 1 4 】 図 1 3 の要部拡大図である。

【 図 1 5 】 展開状態のパンツタイプ使い捨ておむつの平面図（内面側）である。

【 図 1 6 】 展開状態のパンツタイプ使い捨ておむつの平面図（外面側）である。

【 図 1 7 】 展開状態のトランクスタイプ使い捨ておむつの平面図（外面側）である。

【 図 1 8 】 展開状態のトランクスタイプ使い捨ておむつの要部拡大平面図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 2 0 】

以下、本発明の一実施形態について、添付図面を参照しつつ詳説する。なお、用語「伸長率」は自然長を 100%としたときの値を意味する。また、図中の点模様部分はホットメルト接着剤等の接合手段を示している。

図 1 ~ 図 1 0 はトランクスタイプ使い捨ておむつを示している。このトランクスタイプ使い捨ておむつ（以下、単におむつともいう。）は、ウエスト開口及び一対の脚開口を有し、前身頃 F のウエスト開口の縁から後身頃 B のウエスト開口の縁にわたる外装体 20 と、この外装体 20 における少なくとも股間部 28 に設けられた、吸収体 13 を含む内装体 10 と、外装体 20 における前側の両側部及び後側の両側部を接合するサイドシール部 21 とを有するものである。また、外装体 20 の股間部 28 は、吸収体 13 の外接矩形（展開状態の平面視で吸収体 13 に外接する仮想矩形を意味し、本形態では、吸収体 13 の外接矩形の一方の対辺は内装体 10 の両側縁にほぼ等しい）よりも幅方向一方側及び他方側にそれぞれ延び出た一対の内腿接触部分 31 を有し、これら内腿接触部分 31 を含む、脚開口の縁 29 に沿う部分が、腿の付根側を取り囲む一対の脚筒部 30 となっている。製造に際しては、外装体 20 に対して内装体 10 がホットメルト接着剤などの接合手段によって接合された後に、内装体 10 及び外装体 20 が前身頃 F 及び後身頃 B の境界である前後方向（縦方向）中央で折り畳まれ、その両側部が相互に熱溶着又はホットメルト接着剤などによって接合されてサイドシール部 21 が形成されることによって、ウエスト開口及び一対の脚開口が形成されたトランクスタイプ使い捨ておむつとなる。

【 0 0 2 1 】

(内装体の構造例)

内装体 1 0 は、図 3 ~ 図 6 に示すように、不織布などからなる液透過性のトップシート 1 1 と、ポリエチレン等からなる液不透過性シート 1 2 との間に、吸収体 1 3 を介在させた構造を有しており、トップシート 1 1 を透過した排泄液を吸収保持するものである。内装体 1 0 の平面形状は特に限定されないが、図示形態のようにほぼ長方形とすることが一般的である。

【 0 0 2 2 】

吸収体 1 3 の表側を覆い、肌当接面を形成するトップシート 1 1 としては、有孔又は無孔の不織布や多孔性プラスチックシートなどが好適に用いられる。不織布を構成する素材繊維は、ポリエチレン又はポリプロピレン等のオレフィン系、ポリエステル系、ポリアミド系等の合成繊維の他、レーヨンやキュブラ等の再生繊維、綿等の天然繊維とすることができ、スパンレース法、スパンボンド法、サーマルボンド法、メルトブローン法、ニードルパンチ法等の適宜の加工法によって得られた不織布を用いることができる。これらの加工法の内、スパンレース法は柔軟性、ドレープ性に富む点で優れ、サーマルボンド法は嵩高でソフトである点で優れている。トップシート 1 1 に多数の透孔を形成した場合には、尿などが速やかに吸収されるようになり、ドライタッチ性に優れたものとなる。図示形態では、トップシート 1 1 は、吸収体 1 3 の側縁部を巻き込んで吸収体 1 3 の裏面側まで延在しているが、これに限定されるものではない。

【 0 0 2 3 】

吸収体 1 3 の裏側を覆う液不透過性シート 1 2 は、ポリエチレン又はポリプロピレンなどの液不透過性プラスチックシートが用いられるが、近年はムレ防止の点から透湿性を有するものが好適に用いられる。この遮水・透湿性シートとしては、例えばポリエチレンやポリプロピレン等のオレフィン樹脂中に無機充填材を溶融混練してシートを形成した後、一軸又は二軸方向に延伸することにより得られる微多孔性シートを挙げることができる。

【 0 0 2 4 】

液不透過性シート 1 2 としては、排便や尿などの褐色が出ないように不透明のものをを用いるのが望ましい。不透明化としては、プラスチック中に、炭酸カルシウム、酸化チタン、酸化亜鉛、ホワイトカーボン、クレイ、タルク、硫酸バリウムなどの顔料や充填材を内添してフィルム化したものが好適に使用される。図示形態では、液不透過性シート 1 2 は、トップシート 1 1 とともに吸収体 1 3 の幅方向両側で裏側に折り返されているが、これに限定されるものではない。

【 0 0 2 5 】

吸収体 1 3 としては、公知のもの、例えばパルプ繊維の積繊体、セルロースアセテート等のフィラメントの集合体、あるいは不織布を基本とし、必要に応じて高吸収性ポリマーを混合、固着等してなるものをを用いることができる。この吸収体 1 3 は、形状及びポリマー保持等のため、必要に応じてクレープ紙等の、液透過性及び液保持性を有する包装シート 1 4 によって包装することができる。

【 0 0 2 6 】

吸収体 1 3 の全体形状は、股間部 2 8 を含む前後方向範囲にその前後両側よりも幅の狭い括れ部 1 3 N を有するほぼ砂時計状に形成されているが、長方形状等、適宜の意形状とすることができる。括れ部 1 3 N の寸法は適宜定めることができるが、括れ部 1 3 N の前後方向長さはおむつ全長の 2 0 ~ 5 0 % 程度とすることができ、その最も狭い部分 1 3 m の幅は吸収体 1 3 の全幅の 4 0 ~ 6 0 % 程度とすることができる。このような括れ部 1 3 N を有する場合において、内装体 1 0 の平面形状がほぼ長方形とされていると、内装体 1 0 における吸収体 1 3 の括れ部 1 3 N に対応する部分に、吸収体 1 3 を有しない余り部分が形成される。

【 0 0 2 7 】

図 1、図 3 ~ 図 5 に示すように、吸収体 1 3 における幅方向中間部に、前後方向に延びる拡散溝 1 7 を有していると、尿の前後方向の拡散性が向上するため好ましい。尿の拡散

性の観点から、拡散溝は、一方の脚開口の縁と他方の脚開口の縁との間の領域である中間領域よりも前後両側に延びている。拡散溝 17 は、幅方向中央に一本のみとしてもよいが、幅方向に間隔を空けて二本設けることもできる。拡散溝 17 は、図示形態では直線状に延びているが、曲線状に延びていても良い。

【0028】

拡散溝 17 は図示形態のように吸収体 13 を厚み方向に貫通するスリットであることが好ましいが、吸収体 13 の表裏少なくとも一方側に設けられた、厚み方向に貫通しない凹部であっても良い。吸収体 13 に凹部を形成する場合、凹部の形成位置の目付けを周囲よりも減らすことにより形成するほか、凹部の形成位置をエンボス加工により圧縮して形成することもできる。

【0029】

拡散溝形成領域は、吸収体 13 の幅方向中間部に設けられる限り、その位置は限定されないが、通常は幅方向中央が望ましく、その幅（一本の場合は拡散溝の幅 17d）は吸収体 13 の全幅 13w の 5 ~ 20 % とすることが望ましい。また、拡散溝 17 の前後方向長さ 17L は適宜定めることができ、例えば吸収体 13 の全長の 30 ~ 70 % 程度とすることができる。

【0030】

内装体 10 の両側部には脚周りにフィットする立体ギャザー BS が形成されている。この立体ギャザー BS は、図 5 及び図 6 に示されるように、内装体 10 の裏面の側部に固定された固定部と、この固定部から内装体 10 の側方を経て内装体 10 の表面の側部まで延在する本体部と、本体部の前後端部が倒伏状態で内装体 10 の表面の側部に固定されて形成された倒伏部分と、この倒伏部分間が非固定とされて形成された自由部分とが、折返しによって二重としたギャザーシート 15 により形成されている。ギャザーシート 15 としては撥水性とされた不織布が好適に用いられる。

【0031】

また、二重のギャザーシート 15 の間には、自由部分の先端部等に細長状のギャザー弾性部材 16 が配設されている。ギャザー弾性部材 16 は、製品状態において図 5 に二点鎖線で示すように、弾性伸縮力により自由部分を起立させて立体ギャザー BS を形成するためのものである。

【0032】

ギャザー弾性部材 16 としては、通常使用されるスチレン系ゴム、オレフィン系ゴム、ウレタン系ゴム、エステル系ゴム、ポリウレタン、ポリエチレン、ポリスチレン、スチレンブタジエン、シリコン、ポリエステル等の素材を用いることができる。また、外側から見え難くするため、太さは 925 d t e x 以下、伸長率は 150 ~ 350 %、間隔は 10 . 0 mm 以下として配設するのがよい。なお、ギャザー弾性部材 16 としては、図示形態のような糸状の他、ある程度の幅を有するテープ状のものを用いることもできる。

【0033】

ギャザーシート 15 に用いる不織布は特に限定されるものではなく、ポリエチレン又はポリプロピレン等のオレフィン系、ポリエステル系、アミド系等の合成繊維の他、レーヨンやキュプラ等の再生繊維、綿等の天然繊維からなるものとすることができ、また、スパンボンド法、サーマルボンド法、メルトブローン法、ニードルパンチ法等の適宜の加工方法により製造することができる。特に、ギャザーシート 15 としては、尿などの透過を防止するために、シリコン系、パラフィン金属系、アルキルクロミッククロライド系撥水剤などをコーティングした撥水処理不織布を用いるのが望ましい。

【0034】

（外装体の構造例）

外装体 20 には、図 4 にも示されるように、伸縮性を有する付与するための各種弾性部材 24 ~ 27 が配設されており、少なくとも弾性部材を有する領域（図示形態は全領域）は複数のシート層を有しており、これらシート層の間に弾性部材 24 ~ 27 が挟まれている。複数のシート層は、各一枚のシート材により形成するほか、一枚のシート材を折り返

して形成することもできる。図示形態の外装体 20 は、それぞれ不織布等からなる押えシート 20A 及びバックシート 20B からなる 2 層構造とされ、押えシート 20A とバックシート 20B との間、及びバックシート 20B をウエスト開口縁で内面側に折り返してなる折り返し部分 20C の不織布間に各種弾性部材 24 ~ 27 が配設され、伸縮性が付与されている。

【0035】

外装体 20 は、前後方向 LD の中間が括れたほぼ砂時計形状となっており、この括れの両側縁がそれぞれ脚開口の縁 29 となっている。そして、前述のとおり、外装体 20 の股間部 22 には、吸収体 13 の外接矩形よりも幅方向 WD の一方側及び他方側にそれぞれ延び出た一对の内腿接触部分 31 を有し、これら内腿接触部分 31 を含む、脚開口の縁 29 に沿う部分が、腿の付根側を取り囲む一对の脚筒部 30 となる。内腿接触部分 31 の寸法は脚筒部 30 の長さに応じて適宜定めれば良いが、通常の場合、外装体 20 の最も幅の狭い部分における内腿接触部分 31 の幅 $31x$ は、おむつ全長の Y の 1 ~ 5 % 程度とすることが好ましい。また、図 18 に示すように、前身頃 F においては、脚開口の縁 29 上の最も幅方向中央側に位置する仮想点 P1 から、幅方向に対して 20 度の角度 θ_1 で、幅方向外側かつウエスト側に向かう仮想直線 L1 を引いたとき、この仮想直線 L1 と、サイドシール部 21 を有する前後方向範囲における外装体 20 の側縁との交点 P2 を有するのが好ましく、この交点 P2 から脚開口の縁 29 までの前後方向間隔 30f は、外装体 20 の最も幅の狭い部分における内腿接触部分 31 の幅 $31x$ 以上であることが好ましく、ほぼ同じであることが好ましい。一方、後身頃 B においては、脚開口の縁 29 上の最も幅方向中央側に位置する仮想点 P1 から、幅方向に対して 30 度の角度 θ_2 で、幅方向外側かつウエスト側に向かう仮想直線 L2 を引いたとき、この仮想直線 L2 と、サイドシール部 21 を有する前後方向範囲における外装体 20 の側縁との交点 P3 を有するのが好ましく、この交点 P3 から脚開口の縁 29 までの前後方向間隔 30b は、外装体 20 の最も幅の狭い部分における内腿接触部分 31 の幅 $31x$ 以下であっても、以上であってもよい。

【0036】

図示形態の外装体 20 では、前身頃 F 及び後身頃 B のそれぞれにおいて、ウエスト開口近傍 23 に幅方向 WD に沿って配置されたウエスト弾性部材 24 と、ウエスト弾性部材 24 より脚開口側に幅方向 WD に沿って配置されたウエスト下方部弾性部材 25 と、一方のサイドシール部 21 から脚開口の縁 29 に沿って幅方向 WD 中央に向かい、幅方向 WD 中央を横断して他方の脚開口に向かい、他方の脚開口の縁 29 に沿って他方のサイドシール部 21 に至るパターンで湾曲しつつ延在する、互いに交差することなく間隔をおいて配置された複数本の前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 を備えている。これら、弾性部材 24 ~ 27 は、それぞれその延在方向に沿って所定の伸長率で伸長された状態で固定され、固定時の伸長状態と自然長状態との間で外装体 20 とともに伸縮するようになっている。なお、本外装体 20 では、脚開口の縁 29 に沿って前身頃 F のサイドシール部 21 から後身頃 B のサイドシール部 21 まで一本で連続する、脚周り弾性部材は設けられていない。

【0037】

ウエスト弾性部材 24 は、前身頃 F と後身頃 B とが接合されたサイドシール部 21 の前後方向範囲のうち、ウエスト開口近傍 23 に縦方向に間隔をおいて配置された複数本の系ゴム等の細長状弾性部材であり、おむつのウエスト開口の近傍 23 を締め付けてフィットさせるためのものである。このウエスト弾性部材 24 は、図示例では複数本の系ゴムを用いたが、これに代えて例えばテープ状の伸縮部材を用いてもよい。また、図示形態のウエスト弾性部材 24 は、ウエスト部におけるバックシート 20B の折り返し部分 20C の不織布間に挟持されているが、押えシート 20A とバックシート 20B との間に挟持しても良い。

【0038】

ウエスト下方部弾性部材 25 は、サイドシール部 21 を有する前後方向範囲のうち、ウエスト弾性部材 24 より脚開口側の範囲に、縦方向に間隔をおいて配置された複数本の系

ゴム等の細長状弾性部材であり、おむつの胴周り領域のうちウエスト開口近傍 23 を除くほぼ全体を締め付けてフィットさせるためのものである。なお、ウエスト弾性部材 24 とウエスト下方部弾性部材 25 との境界は、弾性部材の太さや伸長率等、伸縮特性が変化する位置にあるか、又は伸縮特性が変化しない場合には内装体 10 のウエスト側の縁に位置する。ウエスト下方部弾性部材 25 は、図示形態のように股間部 28 には設けないことが望ましく、また、中間領域 22 の前後両側には図示形態のように設けることもできるが、設けなくてもよい。

【0039】

後身頃 B の外装体 20 において、ウエスト下方部弾性部材 25 とは別に配設された後脚周り弾性部材 26 は、糸ゴム等の細長状弾性部材であり、少なくとも一本、好ましくは複数本が後身頃 B の脚筒部 30 を通る所定の曲線に沿って配置されている。後脚周り弾性部材 26 は、一本であっても良いが複数本であるのが好ましく、図示例では 5 本の糸ゴム等の細長状弾性部材であり、これら後脚周り弾性部材 26 は互いに交差することなく、間隔をおいて配置されている。この後脚周り弾性部材 26 群は、弾性部材を間隔を密にして実質的に一束として配置されるのではなく、後身頃 B の脚筒部 30 を含む所定の伸縮ゾーンを形成するように 3 ~ 20 mm、好ましくは 6 ~ 16 mm 程度の間隔を空けて、3 本以上、好ましくは 4 本以上配置される。

【0040】

前身頃 F の外装体 20 において、ウエスト下方部弾性部材群 25 とは別に配設された前脚周り弾性部材 27 は糸ゴム等の細長状弾性部材であり、少なくとも一本、好ましくは複数本が前身頃 F の脚筒部 30 を通る所定の曲線に沿って配置されている。前脚周り弾性部材 27 は、一本であっても良いが複数本であるのが好ましく、図示例では 5 本の糸ゴム等の細長状弾性部材であり、これら前脚周り弾性部材 27 は、互いに交差することなく、間隔をおいて配置されている。この前脚周り弾性部材 27 群も、弾性部材を間隔を密にして実質的に一束として配置されるのではなく、前身頃 F の脚筒部 30 を含む所定の伸縮ゾーンを形成するように 3 ~ 20 mm、好ましくは 6 ~ 16 mm 程度の間隔を空けて、3 本以上、好ましくは 4 本以上配置される。前脚周り弾性部材 27 の本数は後脚周り弾性部材 26 の本数と同じとするのが好ましいが、必要時応じて異なる本数とすることもできる。

【0041】

前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 はその全体が湾曲していなくても良く、部分的に直線状の部分の有していてもよい。前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 はいずれか一方のみを設けるだけでもよい。

【0042】

前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 の取り付け方法としては、例えば特開平 4 - 28363 号公報や、特開平 11 - 332913 号公報記載の技術を採用することができる。

【0043】

図 10 に示すように、前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 は、一方の脚開口の縁 29 と他方の脚開口の縁 29 との間の領域である中間領域 22 の幅方向両側で、前脚周り弾性部材 27 の少なくとも一本と、後脚周り弾性部材 26 の少なくとも一本とが交差するパターンで取り付けられていると好ましい。これにより、前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 が交差して脚開口に沿って実質的に連続し、脚筒部 30 の周方向全体にわたる伸縮性が付加される。前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 の交差本数は、図 2 に示す形態のように前後一本ずつとするほか、図 12 に示す形態のようにすべての前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 が交差する形態としてもよい。

【0044】

最も脚開口の縁 29 側に位置する前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 の交差位置 C1 は、括れ部 13N の最も幅が狭い部分 13m と幅方向 WD の位置が同じか又はより幅方向 WD の中央側に位置しており、かつ股間部 28 には、前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 以外の弾性部材を有しないのは一つの好ましい形態である。これ

によって、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の収縮力が内腿接触部分 3 1 を幅方向 W D の中央側に引き寄せにくくなり、内腿接触部分 3 1 の丈の短縮化を抑制することができ、もって装着感の悪化や、隙間発生を防止することができる。

【 0 0 4 5 】

特に、脚開口の縁 2 9 と最も脚開口の縁 2 9 に近い弾性部材との間隔が狭いと、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の交差位置 C 1 は脚開口の縁 2 9 に近くなりやすく、吸収体 1 3 における括れ部 1 3 N の最も幅が狭い部分よりも幅方向 W D の中央側に位置させることが困難となる。よって、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 は、脚開口の縁 2 9 の接線と直交する方向における、脚開口の縁 2 9 と最も脚開口の縁 2 9 に近い弾性部材との間隔 2 9 e が 1 0 mm 以上であると好ましく、特に股間部 2 8 では 1 0 ~ 5 0 mm であると好ましい。

【 0 0 4 6 】

図 8 に示すように、ウエスト下方部弾性部材 2 5 及び前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 は、製造時に外装体 2 0 に対して連続的に固定された後に、内装体接合部 1 8 と重なる部分の一部又は全部が、所定の切断パターン C P で細かく切断されて伸縮しない非伸縮領域 1 9 (つまり、図 8 の切断パターン C P と重なる部分)となり、この非伸縮領域 1 9 より側方に延在する部分が伸縮領域(つまり、図 8 の切断パターン C P より側方の、ウエスト下方部弾性部材 2 5 及び前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 が連続的に残された部分)となってもよい。この場合、ウエスト下方部弾性部材 2 5 及び前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 は、一方側のサイドシール部 2 1 から内装体 1 0 を横切って他方(反対)側のサイドシール部 2 1 まで連続的に設けた後に、内装体接合部 1 8 と重なる部分の一部又は全部が、細かく切断される。これにより、内装体 1 0 (特に吸収体 1 3)の幅方向の不必要な収縮を防止することができる。

【 0 0 4 7 】

特に、吸収体 1 3 に拡散溝 1 7 を有する本形態では、図 2 及び図 1 0 に示すように、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の少なくとも一方は、幅方向 W D の両側のサイドシール部 2 1 から少なくとも吸収体 1 3 の側部と重なる部分まで連続し、拡散溝 1 7 と重なる部分では切断され、外装体 2 0 における拡散溝 1 7 と重なる部分は非伸縮領域 1 9 となっている。特に、図示形態のように、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の少なくとも一方は、吸収体 1 3 における側縁と拡散溝 1 7 との間の領域における拡散溝 1 7 側の端部まで連続し、拡散溝 1 7 と重なる部分では切断され、外装体 2 0 における拡散溝 1 7 重なる部分は非伸縮領域 1 9 になっているとより好ましい。装着時、股間部 2 8 では吸収体 1 3 が両脚に挟まれて幅が縮小するが、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の少なくとも一方が吸収体 1 3 の側部まで延び、かつ拡散溝 1 7 と重なる部分では切断されていると、その弾性部材の収縮力が拡散溝 1 7 を幅方向両側に広げるように作用し、拡散溝 1 7 の潰れが防止される。特に、図示形態のようなトランクタイプ使い捨ておむつにおける前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の場合、収縮方向と幅方向 W D とのなす角が浅くなるため、収縮力の幅方向成分が大きくなり、拡散溝 1 7 の潰れをより効果的に防止できる。

【 0 0 4 8 】

なお、他の弾性部材、例えばウエスト弾性部材 2 4 及びウエスト下方部弾性部材 2 5 を利用することも考えられるが、サイドシール部 2 1 と対応する胴周り領域の弾性部材 2 4 , 2 5 は中間領域 2 2 を通らないため、両脚の間に挟まれる部分である中間領域 2 2 における拡散溝 1 7 の潰れを防止することはできない。また、中間領域 2 2 にウエスト下方部弾性部材 2 5 が設けられることもあるが、このウエスト下方部弾性部材 2 5 は一端がサイドシール部 2 1 ではなく脚開口に位置するため、これを利用しても拡散溝 1 7 の潰れを抑制することはできない。

【 0 0 4 9 】

前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 により拡散溝 1 7 の潰れを防止する場合、図示しないが、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 がその本数及び配置

に関して前後対称配置で設けられていると、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の収縮力の縦方向成分が相殺されるため、吸収体 1 3 における拡散溝 1 7 の両側に対してバランスよく幅方向 W D の力が作用し、拡散溝 1 7 の潰れ防止効果がより一層のものとなる。

【 0 0 5 0 】

中間領域 2 2 の幅方向両側で、前脚周り弾性部材 2 7 の少なくとも一本と、後脚周り弾性部材 2 6 の少なくとも一本とが交差する（繋がる）形態とする場合、交差位置よりも幅方向中央側で前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 を切断する。中間領域 2 2 の幅方向 W D の両側で、複数本の前脚周り弾性部材 2 7 の群と、複数本の後脚周り弾性部材 2 6 の群とが交差する形態とする場合、図 1 7 に示すように、前脚周り弾性部材 2 7 の群における弾性部材の相互間隔及び後脚周り弾性部材 2 6 の群における弾性部材の相互間隔を、幅方向中央側に向かうにつれて狭くすると、多少切断位置がずれたり、切断した弾性部材が固定されずに伸縮方向に移動したりしても、いずれかの前脚周り弾性部材 2 7 と、いずれかの後脚周り弾性部材 2 6 とが交差して、脚開口の縁 2 9 に沿って前身頃 F のサイドシール部 2 1 から後身頃 B のサイドシール部 2 1 まで前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の連続性が残りやすくなるため好ましい。

【 0 0 5 1 】

弾性部材 2 4 ~ 2 7 を切断し非伸縮領域を形成する方法としては、例えば特開 2 0 0 2 - 3 5 0 2 9 号公報、特開 2 0 0 2 - 1 7 8 4 2 8 号公報及び特開 2 0 0 2 - 2 7 3 8 0 8 号公報記載の技術を採用することができる。ウエスト下方部弾性部材 2 5 は切断せずに、内装体 1 0 を横切って連続的に配置することもできる。

【 0 0 5 2 】

弾性部材 2 4 ~ 2 7 の固定時の伸長率は適宜定めることができるが、通常の成人用の場合、ウエスト弾性部材 2 4 は 1 6 0 ~ 3 2 0 % 程度、ウエスト下方部弾性部材 2 5 は 1 6 0 ~ 3 2 0 % 程度、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 は 2 3 0 ~ 3 5 0 % 程度とすることができる。特に、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 を複数本設ける場合は、脚開口の縁に近づくにつれて段階的に伸長率を高くしたり、反対に段階的に伸長率を低くしたりするのも一つの好ましい形態である。この伸長率の変化に代えて、又はこれとともに弾性部材の太さを同様に变化させることもできる。

【 0 0 5 3 】

ウエスト部弾性部材 2 4、ウエスト下方部弾性部材 2 5 及び脚周り弾性部材 2 6、2 7 は、バックシートの折り返し部分 2 0 C の間、並びに押えシート 2 0 A とバックシート 2 0 B との間に挟まれるとともに、それらシート 2 0 A、2 0 B に対してホットメルト接着剤により接着固定されている。ホットメルト接着剤の塗布パターンは適宜定めることができるが、図 9 に示すように、ウエスト部弾性部材 2 4 及びウエスト下方部弾性部材 2 5 の固定のための接着部分 B 1 は、ウエスト部弾性部材 2 4 の配置部分及びその近傍、腰回り弾性部材 2 5 の配置部分及びその近傍のみとするのが好ましい。図 9 は、製造工程におけるホットメルト接着剤の塗布部位 B 1 を示しており、ウエスト部弾性部材 2 4 及びウエスト下方部弾性部材 2 5 を両シート 2 0 A、2 0 B に固定するためのホットメルト接着剤 B 1 は、実質的に各弾性部材 2 4、2 5 の配置部位及びその近傍にのみ塗布されている。このような接着剤の塗布は、外周面に接着剤を塗布したウエスト部弾性部材 2 4 及びウエスト下方部弾性部材 2 5 を両シート 2 0 A、2 0 B で挟むことにより実現することができる。

【 0 0 5 4 】

一方、脚周り弾性部材 2 6、2 7 を押えシート 2 0 A 及びバックシート 2 0 B に固定するためのホットメルト接着剤 B 2 は、例えば図 9 に示すように、脚周り弾性部材 2 6、2 7 を有する前後方向範囲全体に、幅方向に連続的に塗布するほか、図示しないが脚周り弾性部材 2 6、2 7 に沿って階段状に塗布することもできる。

【 0 0 5 5 】

（前後押えシート）

図 1 及び図 4 にも示されるように、外装体 20 の内面上に取り付けられた内装体 10 の前後端部をカバーし、且つ内装体 10 の前後縁からの漏れを防ぐために、前後押えシート 50, 60 が設けられていても良い。図示形態について更に詳細に説明すると、前押えシート 50 は、前身頃 F 内面のうち折り返し部分 20C の内面から内装体 10 の前端部と重なる位置まで幅方向全体にわたり延在しており、後押えシート 60 は、後身頃 B 内面のうち折り返し部分 20C の内面から内装体 10 の後端部と重なる位置まで幅方向全体にわたり延在している。図示形態のように、前後押えシート 50, 60 を別体として取り付けると、素材選択の自由度が高くなる利点があるものの、資材や製造工程が増加する等のデメリットもある。そのため、折り返し部分 20C を、内装体 10 と重なる部分まで延在させて、前述の押えシート 50, 60 と同等の部分形成することもできる。

【0056】

(内装体接合部)

図 10 に拡大して示すように、外装体 20 及び内装体 10 の接合領域である内装体接合部 18 は、中間領域 22 では、幅方向 WD の両側における前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 の交差位置 C1 よりも幅方向 WD の中央側にのみ設けられていると好ましい。これにより、中間領域 22 で前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 が内装体 10 とともに伸縮することがないため、前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 が交差して脚開口の縁 29 に沿って実質的に連続するものでありながら、前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 の交差位置 C1 を含む部分でフィット性が低下しないものとなる。

【0057】

内装体接合部 18 は、前後方向全体にわたり、幅方向 WD の両側における前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 の交差位置 C1 よりも幅方向 WD の中央側にのみ位置する形態としてもよいが、図示形態のように中間領域 22 よりも前後両側では交差位置 C1 よりも幅方向 WD の外側まで存在していることが好ましい。

【0058】

中間領域 22 で、幅方向 WD 両側における前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 の交差位置 C1 よりも幅方向 WD 中央側にのみ内装体接合部 18 が設けられていると好ましいことは前述のとおりであるが、その場合であっても、剛性の高い吸収体 13 が内装体接合部 18 よりも側方まで存在していると、脚周り弾性部材 26, 27 によるフィット性の向上作用が阻害される。よって、図 11 に示すように、吸収体 13 は、前後方向 LD の中間部がその前後両側より幅の狭い括れ部 13N となっており、括れ部 13N における最も幅が狭い部分は、内装体接合部 18 の両側縁よりも幅方向 WD の中央側に位置しているのも好ましい。

【0059】

前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 による伸縮領域が、幅方向 WD の両側における前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 の交差位置 C1 よりも幅方向 WD の中央側まで設けられていると、吸収体 13 が幅方向 WD に収縮して装着感が悪化する。よって、図示形態のように、前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 を交差させて連続性を維持しつつ、幅方向 WD の両側における前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 の交差位置 C1 よりも幅方向 WD 中央側に、前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 が細かく切断された非伸縮領域 19 を有していることが好ましい。

【0060】

他方、図 12 に示すように、中間領域 22 の幅方向 WD の両側で、複数本の前脚周り弾性部材 27 の群と、複数本の後脚周り弾性部材 26 の群とが交差する形態とすると、図 13 (a) に拡大して示すように、小さな面積の領域内に脚周り弾性部材 26, 27 の交差位置 (図中丸で囲む部分) が多数存在し、脚周り弾性部材 26, 27 により囲まれた部分がこぶ状に膨らむため、他の部分と比べて柔軟性が低下する。そこで、図 13 (b) に示すように、前脚周り弾性部材 27 及び後脚周り弾性部材 26 のそれぞれに、脚開口の縁 29 に最も近いものから最も遠いものまでこの順に順番を付したとき、順番が同じ前脚周り

弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 は、サイドシール部 2 1 から互いの交差位置（図中丸で囲む部分）まで連続し、かつこの互いの交差位置より幅方向 W D の中央側の部分がそれぞれ切断され、実質的に伸縮しないようになっている形態も提案される。図中の符号 C P は切断パターンを示している。このような切断パターン C P を採用することにより、脚開口の縁 2 9 に沿って連続する前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の組み合わせは、丸で囲んで示した交差位置で繋がる前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の各一本の組み合わせとなり、各組の前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 は互いに交差しないため、柔軟性が低下しにくいものとなる。

【 0 0 6 1 】

また、図 1 4 に示すように、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 のそれぞれに、脚開口の縁 2 9 に最も遠いものから最も近いものまでこの順に順番を付したとき、順番が同じ前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 のうち、前脚周り弾性部材 2 7 はサイドシール部 2 1 から次の順番の後脚周り弾性部材 2 6 との交差位置（図中丸で囲む部分）まで、及び後脚周り弾性部材 2 6 はサイドシール部 2 1 から次の順番の前脚周り弾性部材 2 7 との交差位置（図中丸で囲む部分）まで、それぞれ連続し、かつこの互いの交差位置より幅方向 W D 中央側の部分がそれぞれ切断され、実質的に伸縮しないようになっている形態も提案される。このような切断パターンを採用した場合にも、脚開口に沿って連続する前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の組み合わせは、丸で囲んで示した交差位置で繋がる前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の各一本の組み合わせとなり、各組の前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 は互いに交差しないため、柔軟性が低下しにくいものとなる。さらに、この形態では、前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 の交差位置 C 1 が脚開口に近くなり、より脚開口の縁 2 9 に近い形状で前脚周り弾性部材 2 7 及び後脚周り弾性部材 2 6 が連続するという利点ももたらされる。

【 0 0 6 2 】

（その他）

上記形態は、脚周り弾性部材 2 6 , 2 7 による拡散溝の潰れ防止構造をトランクスタイプ使い捨ておむつに適用したものであるが、図 1 5 及び図 1 6 に示すように、外装体 2 0 の股間部が、吸収体 1 3 の外接矩形よりも幅方向一方側及び他方側にそれぞれ延び出す、脚筒部を有しないパンツタイプ使い捨ておむつに適用することも可能である。このパンツタイプ使い捨ておむつは、脚筒部を有しない点以外は、上記トランクスタイプ使い捨ておむつと同様であるため、同じ符号を付して説明を省略する。

【 0 0 6 3 】

< 明細書中の用語の説明 >

明細書中の以下の用語は、明細書中に特に記載が無い限り、以下の意味を有するものである。

・「前身頃」「後身頃」は、使い捨ておむつの前後方向中央を境としてそれぞれ前側及び後側の部分を意味する。

・「股間部」は、装着者の股間に位置するようになる部分を意味し、通常の場合、図 1 8 に示すように前後方向中央を含む、展開状態における脚開口の縁 2 9 の接線と前後方向とのなす鋭角側交差角が 4 5 ° 以下となる前後方向範囲 2 8 を意味する。

・「伸長率」は、自然長を 1 0 0 % としたときの値を意味する。

・「目付け」は次のようにして測定されるものである。試料又は試験片を予備乾燥した後、標準状態（試験場所は、温度 20 ± 5 、相対湿度 6 5 % 以下）の試験室又は装置内に放置し、恒量になった状態にする。予備乾燥は、試料又は試験片を相対湿度 1 0 ~ 2 5 %、温度 5 0 を超えない環境で恒量にすることをいう。なお、公定水分率が 0 . 0 % の繊維については、予備乾燥を行わなくてもよい。恒量になった状態の試験片から米坪板（ $200\text{ mm} \times 250\text{ mm}$ 、 $\pm 2\text{ mm}$ ）を使用し、 $200\text{ mm} \times 250\text{ mm}$ （ $\pm 2\text{ mm}$ ）の寸法の試料を切り取る。試料の重量を測定し、1 平米あたりの重さを算出し、目付けとする。

・吸収体の「厚み」は、株式会社尾崎製作所の厚み測定器（ピーコック、ダイヤルシックネスゲージ大型タイプ、型式 J - B（測定範囲 0 ～ 35 mm）又は型式 K - 4（測定範囲 0 ～ 50 mm））を用い、試料と厚み測定器を水平にして、測定する。

・上記以外の「厚み」は、自動厚み測定器（KES - G5 ハンディ圧縮計測プログラム）を用い、荷重： 0.098 N/cm^2 、及び加圧面積： 2 cm^2 の条件下で自動測定する。

・「展開状態」とは、収縮や弛み無く平坦に展開した状態を意味する。

・各部の寸法、位置関係は、特に記載が無い限り、自然長状態ではなく展開状態における寸法を意味する。

・試験や測定における環境条件についての記載が無い場合、その試験や測定は、標準状態（試験場所は、温度 20 ± 5 、相対湿度 65 % 以下）の試験室又は装置内で行うものとする。

【産業上の利用可能性】

【0064】

本発明は、パンツタイプ使い捨ておむつ、より好ましくはトランクスタイプ使い捨ておむつに利用できるものである。

【符号の説明】

【0065】

10 ... 内装体、11 ... トップシート、12 ... 液不透過性シート、13 ... 吸収体、13N ... 括れ部、14 ... 包装シート、15 ... ギャザーシート、16 ... ギャザー弾性部材、17 ... 拡散溝、18 ... 内装体接合部、19 ... 非伸縮領域、20 ... 外装体、20C ... 折り返し部分、21 ... サイドシール部、22 ... 中間領域、24 ... ウエスト弾性部材、25 ... ウエスト下方部弾性部材、26 ... 後脚周り弾性部材、27 ... 前脚周り弾性部材、28 ... 股間部、29 ... 脚開口の縁、30 ... 脚筒部、31 ... 内腿接触部分、B ... 後身頃、BS ... 立体ギャザー、C1 ... 交差位置、F ... 前身頃、LD ... 前後方向、WD ... 幅方向。